

宇和島市 × 仙台市 歴史姉妹都市提携50年



▲仙台すずめ踊りは仙台城築城祝いの宴席で披露された即興の踊りに始まると伝わり、仙台・青葉まつりで親しまれてきた。

「つないだ絆 未来へ舞う」

本市と宮城県仙台市は、仙台藩祖伊達政宗の長男・秀宗が慶長19年（1614年）に宇和島藩祖となつて以来、両市とも城下町として繁栄してきた歴史的關係から、昭和50年11月3日に歴史姉妹都市として提携しました。平成17（2005）年に本市が合併したこと、翌平成18（2006）年に改めて提携を確認し、本年11月3日で50年となりました。

これまで、両市はさまざまなイベントや歴史文化の交流などを通じて、友好を深めてきました。さらに東日本大震災や平成30年7月豪雨災害が発生した際には、お互いに支援し合い、その結びつきはますます強いものとなりました。

50年の節目を迎えた本年度はうわじま牛鬼まつりに仙台市から訪問団が派遣され、仙台すずめ踊りが披露されました。また8月には道の駅で、ずんだフェアが開かれ、盛況を博しました。11月1日(土)からは松山市で姉妹都市合同プロモーションイベントが開催される予定です。

秀宗が宇和島に入部して410年、政宗と秀宗親子の絆が縁となり、歴史や文化、経済など多方面で交流や助け合いが続いています。未来へと続く友好に願いを込めて、仙台市とのつながり特集します。

仙台伊達家とのつながり

天正19年(1591年)、伊達秀宗は仙台藩祖伊達政宗の長男として陸奥国(現在の宮城県)で生まれました。幼少期、政宗によって当時天下を治めていた豊臣秀吉のもとへ人質として送られましたが、秀吉に気に入られ大切に育てられることになります。この際、秀吉と父政宗から一字ずつ授かり、「秀宗」と名乗るようになりました。

しかし、関ヶ原の戦いを経て、政権が豊臣家から徳川家へ移ると、秀宗は今度は徳川家のもとで人質として生活することになります。一方で、弟の忠宗は徳川秀忠から「忠」の一字を与えられ、「忠宗」と名乗り仙台藩を継ぎました。政宗は常に秀宗のことを気にかけ、大切な長男である秀宗の将来を案じていました。

慶長19年(1614年)、政宗は秀宗を伴い、大坂冬の陣に出陣し、豊臣家と戦って功績を上げます。その功績が認められ、秀宗は徳川家から宇和郡10万石を拝領し宇和島に入部して、宇和島伊達家は誕生しました。



絵本「伊達秀宗公物語」

宇和島伊達400年祭を記念し宇和島信用金庫が絵本「伊達秀宗公物語」を制作されました。今年6月には歴史姉妹都市提携50周年を記念し増版され、市内小中学校や図書館などに配布されています。子どもたちに宇和島の歴史や仙台市との交流を知ってもらい、そのつながりを深め長く語り継いでいきたいという思いが込められています。

ホームページからも
閲覧できます。



令和7年度 仙台市・宇和島市歴史姉妹都市提携50周年記念特別展 「伊達の遺伝子ー我が祖先(おや)は奥の最上や天の川ー」

仙台と宇和島との歴史的な絆や、仙台・宇和島の両家に仕える家臣団にもスポットをあてて紹介します。伊達政宗の甲冑や仙台藩初代～5代藩主の肖像画、仙台藩2代藩主伊達忠宗坐像、意匠が印象的な陣羽織や家臣団の旗、仙台と宇和島の両伊達家に伝わる年中行事に関する資料などを展示します。

日 ～ 11月24日(月)休 午前9時～午後5時

場 伊達博物館 (休館日：火曜日)

料 大人500円、65歳以上・大学生400円、高校生以下・障がい者無料

問 伊達博物館 ☎22-7776



ID: 0059152



木造 伊達忠宗坐像 仙岳院蔵



羅紗地九曜紋火事装束(羽織) 仙台市博物館蔵

右: 羅紗とは厚い毛織物のこと。背には九曜紋、袖には月星紋、裾には唐草模様が縫い付けられている。

左: 2代藩主忠宗の肖像彫刻。忠宗の23回忌に向けて制作された可能性も考えられている(展示は11月5日(水)～)。



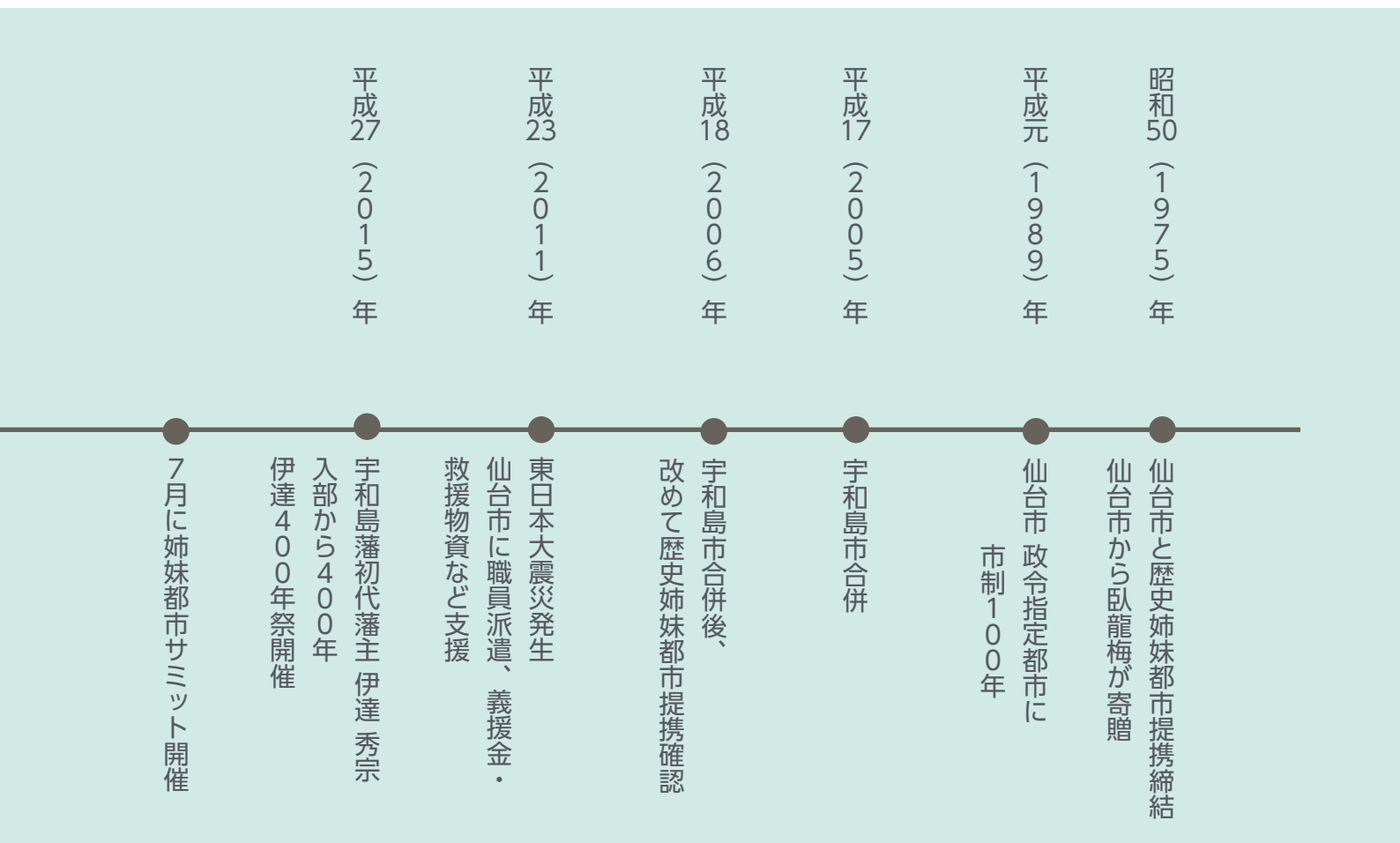
▲秀宗公が57人の家臣と宇和島へ入部した
ことを再現した伊達五十七騎大武者行列



▲仙台・青葉まつりで勇壮な練りを披露する牛鬼



▲宇和島に伝えられたとされる仙台的鹿踊



▲仙台市をはじめとした姉妹都市の首長
が天赦園に集まった姉妹都市サミット



▲東日本大震災で被害を受けた仙台市へ救
援物資を輸送



▲仙台藩祖政宗の晩年の居城にも植えら
れている仙台市から寄贈された臥龍梅

これまでの2市のあゆみ



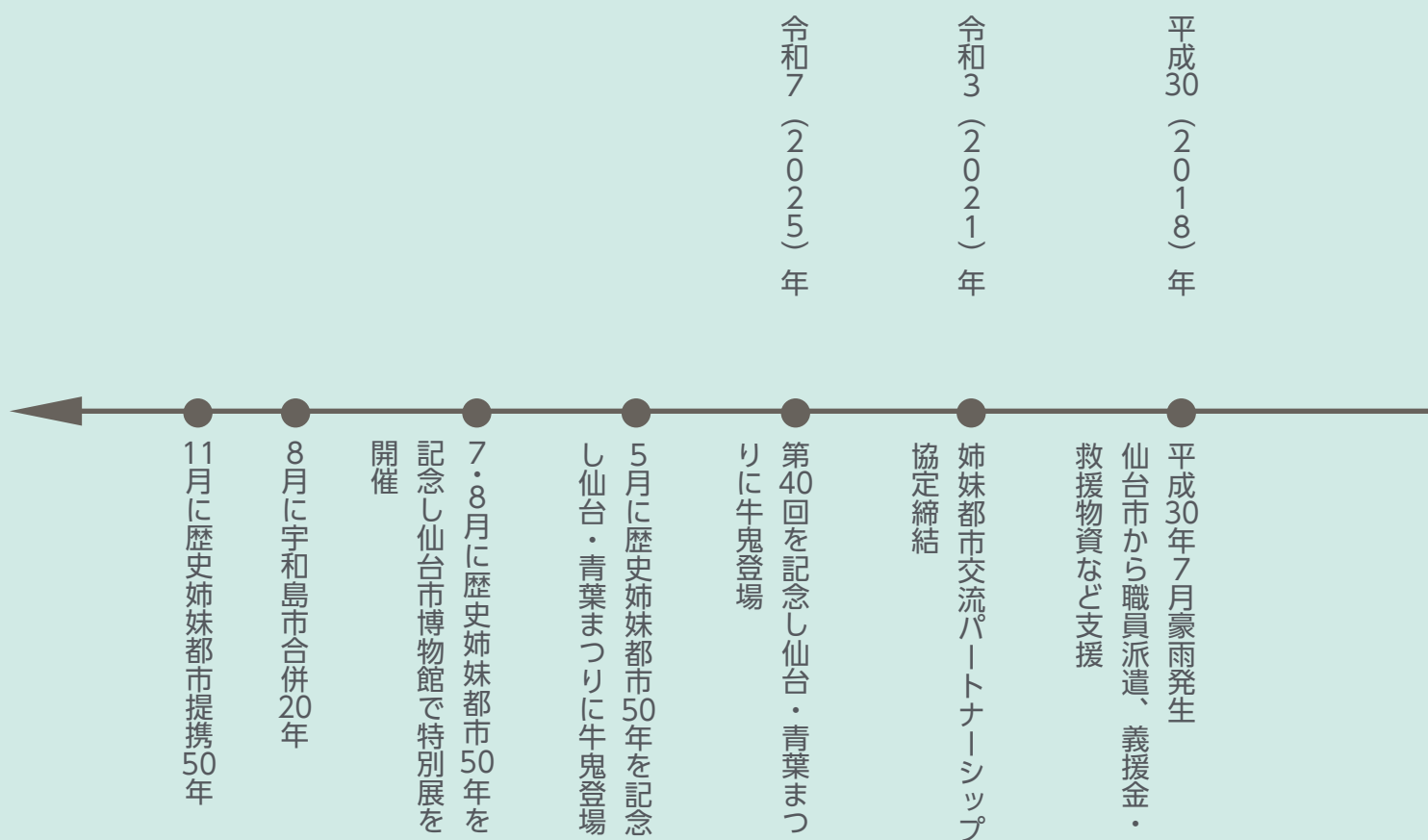
▲宇和島市内で開催された仙台市特産の
ずんだフェア



▲マグロの解体ショーグループ「サバキ女
子」が宇和島に続き仙台でも結成



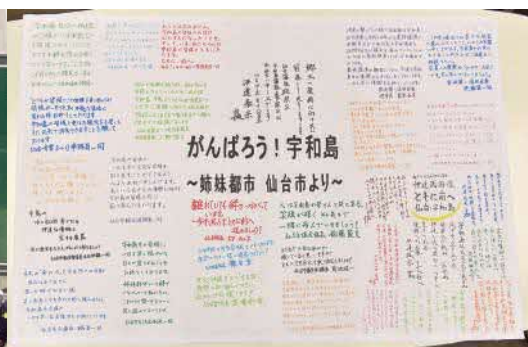
▲歴史姉妹都市50周年を記念し仙台市博物館
で特別展を開催



▲仙台市に本社のある企業と経済面での交
流を推進する協定を締結



▲仙台フィルハーモニー管弦楽団と津島町
内の小中学校との交流



▲平成30年7月豪雨災害の際に届けられた
仙台市からの応援メッセージ

特産品



(公財) 仙台観光国際協会

(公財) 仙台観光国際協会

右：仙台をはじめ、東北地方では昔から子どもの健康と成長を祈る縁起物としてこけしが作られてきた。

左：笹かまぼこは、魚のすり身を笹の葉の形にして焼き上げて作られる。また宇和島の練り製品は秀宗公が仙台からかまぼこ職人を連れてきて始まったとも言われる。

歴史・文化



(公財) 仙台観光国際協会

右：政宗によって創建された国宝の大崎八幡宮は、漆塗りや彫刻、金具に飾られ、桃山建築の傑作と言われる。

左：伊達62万石の仙台城（青葉城）跡には、仙台藩初代藩主の伊達政宗公騎馬像が仙台市街地を見守るように立つ。

仙台市ってこんなところ

宮城県のほぼ中央に位置し、近代的なビルや商業施設などの都市機能と、緑が多く「杜の都」と呼ばれる美しい自然環境とが共存しているのが魅力です。人口約109万人（10月1日現在）、面積は約786km²です。古くから東北地方の政治経済・文化の中心地として栄え、多くの大学や研究機関、学生たちが集まる学都としても有名です。



名所



右：落差55mの秋保大滝は、日本の滝百選や国の名勝に指定され、四季折々の景色が楽しめる。

左：SENDAI光のページェントは定禅寺通で毎年12月に開催されるイルミネーションイベントで、127本のケヤキを48万個のLEDが華やかに装飾する。

イベント



右：東北三大祭りの一つの七夕まつりは、豪華けんらんな笹飾りが仙台市内を彩る。宇和島でもその文化を継承し七夕祭りが行われてきたと言われる。

左：仙台・青葉まつりでは、すずめ踊りのほか、全12基の山鉾、武者行列が新緑の仙台を練り歩く。



仙台市長
郡 和子

宇和島市と仙台市は、仙台湾祖伊達政宗公の長子である秀宗公が慶長19年（1614年）に宇和島藩祖となって以来、ともに伊達家ゆかりの城下町として発展してきた歴史的経緯を踏まえ、昭和50年（1975年）11月に歴史姉妹都市として提携しました。それから50年を迎える節目の年を宇和島市民の皆さまとともに祝いできますこと、心よりうれしく思っております。

提携50周年を記念して、本年5月に開催された仙台・青葉まつりに宇和島から迫力ある牛鬼にご参加いただき、7月のうわじま牛鬼まつりには、本市を代表する郷土芸能である仙台すずめ踊りの公演団が参加し、仙台の伊達な祭りの雰囲気や宇和島にお届けいたしました。両市を代表する祭りを通じ、「伊達」の絆を感じることが出来る素晴らしい機会となりました。

こうした歴史的・文化的な交流に加え、宇和島の皆さまの熱意とご尽力もあり、仙台にいがら「今」の宇和島の多様な魅力に接することが出来る機会が年々増えていると感じております。仙台の奥座敷として名高い秋保温泉地区にある「秋保ヴィレッジ」において、例年2月に開催されている「えひめ宇和島歴史姉妹都市フェア」は、宇和島の魅力あふれる食や物産に触れられる恒例イベントとして人気も高く、毎年多くの仙台市民が楽しみにしていらつしやいます。遠く離れた四国の地にあっても、たくさんの仙台市民が宇和島に深い親しみを抱いていることは、長きにわたる交流が育んだ確かな絆の証であると感じております。

「伊達」の縁がつかないだ宇和島市と仙台市の絆が、これからも末永く続き、両市の輝かしい未来につながっていくことを祈念して、お祝いのメッセージとさせていただきます。

共に輝く未来を目指して

秀宗が宇和島に
入部して410
年。宇和島では仙
台の伝統や文化を
取り入れつつ、独
自に歴史や文化を
開いてきました。

そうして長い時
間の中で育み受け
継いできたことを
大事にしなが、
これからも両市の
友好と、輝く未来
を築いていければ
と思います。